

## 平成 27 年度第 2 回千葉県図書館協議会議事録

1 日 時 平成 27 年 11 月 26 日 (木) 14 時 00 分～16 時 05 分

2 場 所 千葉県消費生活センター 3 階 研修講義室

3 出席者

(1) 委員

齊藤誠一 委員長、大山努 副委員長、  
小野和美 委員、備中隆文 委員、伊藤久恵 委員、平山章子 委員、  
能勢仁 委員、布施春香 委員、十倉典子 委員、青柳洋治 委員

(2) 事務局

森川みやこ図書館長、渡辺花見川図書館長、幸島稲毛図書館長、  
坂本若葉図書館長、石原緑図書館長、中田美浜図書館長、  
小池中央図書館管理課長、小林中央図書館管理課担当課長  
元好中央図書館情報資料課長、山田中央図書館情報資料課長補佐

(3) 傍聴人

7 人

4 議 事

千葉県子ども読書活動推進計画（第 3 次）について

5 議事の概要

千葉県子ども読書活動推進計画（第 3 次）について

→ 概ね原案どおり、パブリックコメント手続きを実施することとした。

6 会議経過

<開 会>

- みやこ図書館館長あいさつ
- 定足数の確認(図書館協議会委員 10 名の出席をもって成立)
- 会議の公開についての説明
- 委員長あいさつ

<議 事>

千葉県子ども読書活動推進計画（第 3 次）について

齊藤委員長 それでは、議事にはいります。

千葉県読書活動推進計画（第 3 次）について、事務局から説明をお願いします。

小池管理課長 《資料 千葉県子ども読書推進計画（第 3 次）概要に基づく説明》

齊藤委員長 千葉県子ども読書活動推進計画（第 3 次）の概要について、質問等  
ありますか。

青柳委員 児童書貸出冊数について、「第 2 次計画における取組と成果」の《目標  
とする数値に対する状況[平成 26 年度]》では、現状[平成 26 年度]の数値が、

122万冊となっています。

第3次計画「目標とする数値[平成32年度]」では、現状[平成26年度]の数値が、158万冊となっています。

第3次計画における、児童書貸出冊数の現状[平成26年度]の数値158万冊の根拠を教えてください。

小池管理課長 第2次計画までは、公民館図書室の実績を含んでいませんでした。

公民館図書室についても、図書館とネットワークでつながっており、貸出・返却ができますので、第3次計画につきましては、公民館図書室の実績を含んで、現状[平成26年度]の数値としています。

青柳委員 公民館図書室の実績を含めると、平成26年度の児童書貸出冊数は158万冊ということですか。

小池管理課長 そのとおりです。

齊藤委員長 第2次計画での、児童書貸出冊数の現状[平成26年度]122万冊に、公民館図書室の実績をプラスすると、第3次計画での、現状[平成26年度]158万冊と一致するのですか。

小池管理課長 図書館での児童書貸出数122万冊に、公民館図書室の実績36万冊をプラスして、平成26年度の現状は158万冊になります。

齊藤委員長 公民館図書室では、児童書貸出冊数が36万冊あったということですか。

小池管理課長 そのとおりです。

齊藤委員長 児童書貸出冊数について、平成32年度の目標とする数値は158万冊ですが、平成26年度の現状158万冊と変わらないということですか。

小池管理課長 目標値については、冊子9ページ下部※印に「推計値によると、児童生徒数は平成32年度までに約2,000人減少する見込み」と記載のとおり、平成32年度に児童生徒数が約2,000人減少する見込みです。

これまでは、児童生徒1人あたり貸出冊数21.75冊を見込んでいましたが、平成32年度までに、1人あたり貸出冊数22.00冊に増やすことを目標としています。

児童生徒数が減少するため、児童書貸出冊数については、現状平成26年度の数値と、平成32年度の目標値は同じ数値ですが、1人あたり貸出冊数でみると、増加する数値で目標としています。

齊藤委員長 これに関連して何かありますか。

大山副委員長 現状からみると、数値目標を改善していくのは厳しいと思いますが、第3次計画の目標とする数値の根拠を教えてください。

小池管理課長 児童書貸出冊数については、先ほどご説明したとおりです。

団体貸出用資料の貸出冊数については、平成32年度までに団体数を14団体増やすことによって、貸出冊数を4,500冊増加させる目標設定をしています

読書習慣のある児童生徒の割合については、第2次学校教育推進計画と同様の目標としています。

第2次学校教育推進計画では、平成33年度までに読書習慣のある児童生徒の割合52.5%を目標としています。平成32年度は、その前年にあたるため、読書習慣のある児童生徒数の割合52.0%を目標としています。

1ヶ月間に読んだ本が0冊の児童生徒の割合については、国が10年間の内に、現状値の半減を目指しています。千葉市については、期間が5年間のため、現状値の3割減を目標として設定しています。

能勢委員 千葉市の図書館2015の33ページ「図書資料貸出冊数の推移」について、児童書の貸出冊数は、図書館計1,218,605冊、公民館図書室計360,404冊です。図書館計に対する公民館図書室計の割合は約30%です。

昨年、千葉市の公民館図書室すべてを見ましたが、公民館図書室は本が揃っていないと思います。

児童書の貸出冊数でみると、公民館図書室でも児童書がよく借りられていると思いますが、逆に図書館がだらしがないということ、この数値が示しているのではないかと思います。

もっと公民館図書室の資料を充実させるか、あるいは図書館に頑張ってもらえないと、目標の数値は達成しないと感じました。

齊藤委員長 ありがとうございます。児童書貸出冊数について、公民館図書室の割合は高いのですね。

第3次計画から、公民館図書室の数値を入れた理由はなぜですか。

小池管理課長 先ほども申し上げましたが、公民館図書室についても、図書館とネットワークでつながっており、図書館の資料も公民館図書室で貸出・返却ができるため、千葉市全体の位置づけとして、公民館図書室の実績を含ませていただきました。

齊藤委員長 正論だと思います。

平山委員 団体貸出用資料貸出冊数の目標値の根拠について、団体数を14団体増やすという説明がありましたが、14団体という数値の根拠はなんですか。

山田情報資料課長補佐 子どもルームなど新しい団体の希望は増えています。昨年度も各区で1団体ずつ要望がありました。

平成32年度までの目標として、中央館・地区館7館で2団体ずつ増やし、14団体増としています。

平山委員 ありがとうございます。

齊藤委員長 他はいかがですか。

十倉委員 子ども読書活動推進計画(第3次)がどのように作られたか教えてください。

子どもが本を読まなくなった原因について、パソコンやスマートフォンの普及など、千葉市に限らずそうであろうということを挙げていると思いま

す。千葉市の第 2 次計画をどのように見直して、現状をどのように受けて第 3 次計画になったのか、どこの所管課が集まったのか、会議が何回あったのか、という具体的な部分を教えてください。

小池管理課長 5月に庁内の子ども読書活動推進会議を開催し、各事業の所管課が集まり、計画を策定する趣旨を説明のうえ、計画骨子を提示し、策定の方向性を確認しました。

7月に担当者会議を開催し、計画の趣旨を説明のうえ、事業の洗い出しの依頼を実施。8月頃までに新たに実施、拡充、廃止する事業を提出していただきました。

11月に、子ども読書活動推進会議にて、取りまとめた結果を報告しました。

以上に基づき、千葉市子ども読書活動推進計画(第3次)の原案を策定しました。教育委員会委員協議会でも、説明の上、意見をいただき、内容については、教育長と市長まで報告をしています。

図書館協議会では、原案をお示ししまして、ご意見をいただきながら、この後パブリックコメント手続きを実施の上、再度ご報告させていただきます。

そして平成28年4月に計画スタートというスケジュールになっております。

十倉委員 施策・事業項目にそれぞれ所管課があるが、千葉市子ども読書活動推進会議はどなたが参加していますか。

小池管理課長 43ページに千葉市子ども読書活動推進会議設置要綱、44ページに別表第1、別表第2がございます。

上段の表は、推進会議のメンバーです。下段の表が、担当者会議のメンバーです。

十倉委員 分かりました。ありがとうございます。

能勢委員 3ページの児童書貸出冊数についてです。

平成26年度1,218,605冊であり、児童数は減っているにも関わらず、児童書貸出冊数は5年ぶりに増加しています。

「まほうの読書ノート」などの取組によっては、このように貸出冊数が増加するのだと感じました。子どもの読書活動が増加するということは、そのまま大人につながっていくわけですので、非常に明るいデータだと思います。

齊藤委員長 その点について事務局はいかがですか。「まほうの読書ノート」の効果が大きいですか。

小池管理課長 「まほうの読書ノート」に加えて、「子育てコーナー」を中央館・各地区館でも設置をしまして、こうした取組も効果があったと考えております。

齊藤委員長 3 ページについて、平成 26 年度児童書貸出冊数は図書館 122 万冊に公民館図書室 36 万冊がプラスされて 158 万冊です。一般書を含めた、千葉市の平成 26 年度貸出冊数は 483 万冊のため、約 3 割が児童書です。

貸出冊数における児童書の割合の全国平均は、およそ 24～25%ですので、そういう部分では、頑張っていると思います。

平山委員 千葉市子ども読書活動推進会議について、44 ページにメンバー表がありますが、全員が集まるのですか。

小池管理課長 そのとおりです。

十倉委員 千葉市子ども読書活動推進会議及び担当者会議がどのように行われたのかは分かりました。

第 3 次計画は第 2 次計画を踏襲しており、たくさんの事業がありますが、なんとなく表面的で、今の子ども達の問題をとらえているのか、気になりました。

推進会議及び担当者会議に、直接子どもと関わっている人が参加していないのではないかと思います。会議は終わっていますが、これから計画などを策定するときには、現場で子どもと直接関わっている方の参加が必要だと思います。

そうしないと、計画のどこが課題なのか分からないと思います。

小池管理課長 学校図書館司書の方につきましても、研修会等に参加させていただき、団体貸出等についてのご意見をお聴きしながら計画に反映させていただきます。

資料の種類を増やしてもらいたい、現場まで運んでもらいたい、などいろいろな意見をいただきましたので、反映させながら進めていきたいと考えております。

青柳委員 概要《目標とする数値に対する状況[平成 26 年度]》の、「児童生徒の一人当たり 2 週間の平均読書冊数」ですが、小学生 12.3 冊、中学生 4.7 冊となっています。

次に、「学校以外で 1 週間にどのくらい読書をするかに対し「読まない」と回答する児童生徒の割合」について、小学 5 年生 17.8%、中学 2 年生 15.0%となっています。

2 週間の平均読書冊数は、小学生は中学生に対して 3 倍弱ですが、学校以外で「読まない」と回答する児童生徒の割合については、さほど数値に差がありません。

小学生が 2 週間で 12 冊本を読むということは、驚異的な読書量だと思います。小学生は学校で読書をしていて、中学生になるとあまり学校で読書をしなくなるということなののでしょうか。

中学生が 2 週間で 5 冊読むということも、すごいと思います。よく読書離れという話がありますが、この数値だけをみるとさほど心配する数値では

ないと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

小池管理課長 「学校以外で 1 週間にどのくらい読書をするのかに対し「読まない」と回答する児童生徒の割合」については、実際の冊数ではなく、意識調査であるため、回答する際の状態にもよるかと思います。

小野委員 「児童生徒の一人当たり 2 週間の平均読書冊数」については 2 週間調査し、結果を学校教育部指導課に提出しています。

「学校以外で 1 週間にどのくらい読書をするのかに対し「読まない」と回答する児童生徒の割合」については、千葉市学力状況調査のデータのため、比較をすると違うものです。「児童生徒の一人当たり 2 週間の平均読書冊数」小学生 12.3 冊というのは、家での読書の数値も含めているため、こういった数値になると思います。

中学校も、学校図書館指導員を週 4 日配置していますので、読書冊数は増えてきているとお話をいただいています。

不読率を改善する目標があり、児童生徒が本を読む手立て、児童生徒に本を手渡す努力をしています。ただ本を手渡すだけでなく、読み聞かせなど、環境を整備しながら、努力をしています。

「まほうの読書ノート」の効果もあります。昨年度、「まほうの読書ノート」について保護者へアンケートも行っており、その集計の結果も入っているかと思います。

「まほうの読書ノート」を、ただ与えているだけではなく、学校の図書館指導員さんに説明をし、ホームページに「まほうの読書ノート」の Q&A を掲載するなど、図書館の方たちの努力もあり、結果に結びついています。

まだまだの部分もありますが、お互いに努力しながら「まほうの読書ノート」の効果을上げている部分もありますので、平均読書冊数は増えていると思います。

青柳委員 ありがとうございます。短絡的に、高学年になるほど読書量が減っているというわけではないということですね。

小野委員 高学年の児童生徒は多少減っていきませんが、努力はしているので、完全には読めなくても厚い本を読んだり、そういう方向に向かっています。

青柳委員 冊数よりも、時間数で考えると、大きく乖離しているわけではない。そういう理解でよろしいですね。

能勢委員 小野委員に質問ですが、平均読書冊数には、朝の読書の冊数もはいつていますか。

児童生徒は毎日朝の読書をしています。あまり本を読まない児童生徒でも、月曜日から金曜日までの平日 2 週間、10 日間で 10 冊になります。

本を読んだということは、読了したということだと私は考えています。

2 週間に 12 冊だと、年間に約 290 冊。これは大変な読書家だと思います。

小野委員 継続して読んでいるので、朝の読書で 10 分間読んだものは次の日も続

けて読んでいます。そのため朝の読書の冊数も含めています。

能勢委員 そうすると、例えば2日間続けて同じ本を読んだ場合、読書冊数2冊とはせず、1冊としているのですね。

小野委員 そのとおりです。それと、低学年の絵本はすぐに読み終わりますので、低学年の数値は大きくなります。高学年の児童生徒の平均読書冊数は、10数冊というところまでいかないのが実情です。

能勢委員 中学生は、小学生と比べて2週間の平均読書冊数の数値が低いですが、中学校では朝の読書はありますか。

備中委員 中学校の8割以上は朝の読書をやっています。

また、中学校でも読み聞かせをやっています。1クラスやれば、そこで40人は1冊読んだことになります。小学校はもっと回転が速いです。

朝の読書の10分間、静寂の中で集中してから授業を開始していくという意味での、意識的な効果もあると思います。

齊藤委員長 3ページ1主な取組(11)全小中学校への学校図書館指導員の配置について、1校に1人配置ではなく、学校図書館指導員は掛け持ちと聴いたことがあるのですが、その点を教えてください。

小野委員 小学校は、2校を2日間ずつ掛け持ちで担当しています。ただし、千葉市でも、何校かは1人でやっているところもあります。

中学校は週4日間、1校に1人配置です。

齊藤委員長 中学校は、学校図書館指導員が週4日間いて、小学校は週2日間で2校掛け持ちの人がいるということですね。

小野委員 ほとんどがそうです。

小池管理課長 37ページにも、5市立小・中学校への学校図書館指導員の配置の推移として記載しております。

齊藤委員長 小学校でも掛け持ちではなく、1校に1人配置する方法はないのでしょうか。あるいは学校の方から掛け持ちでなく、1校に1人配置したいという要望はないのでしょうか。

小野委員 そういう要望はしています。

齊藤委員長 私は、学校図書館指導員がいるかないかで、児童生徒の利用が違ってくると思います。できるのであれば、小学校でも掛け持ちでなく1校に1人学校図書館指導員がいるとよいと思います。

備中委員 学校図書館指導員の仕事には、図書の貸出・返却もありますが、児童生徒への図書の紹介、学校図書館の環境整備もあり、そういうこともよくやっています。

昔の学校図書館は殺風景でしたが、今はブックトークをやったり、掲示物をつくったり、児童生徒の読書習慣がつくような環境づくりをしています。

小学校でも1校に1人配置になりますと、担当の図書館としての愛着や、

責任も出てきますし、教員との連携もしていきますので、1校に1人配置が行われるとよいと思います。

十倉委員 千葉市では、学校図書館指導員が小学校に配置になった当初は、児童生徒もたくさん本を読んでいたと思います。次に中学校が週4日間配置になったときは、すごくよくなったイメージが実際にあります。

今日も午前中、学校のおはなし会に行ってきましたが、今日は図書館指導員がいない日でした。いらしていれば、少しでも参加してもらえるということもあります。小学校でも、学校図書館指導員が毎日いるという状況が児童生徒にとっても望ましいと思います。

学校のことに関連して、22 ページ(2)小・中・高等学校・特別支援学校の役割の3段落目、「読書センター」や「学習・情報センター」など明確な言葉が出てきていて、定義付けはきちんと考えられていると思います。

ただし、事業は第2次計画とほとんど変わっていないと思います。第2次計画の状況をどのように分析されたのでしょうか。

また、維持しているどころか、後退しているところもあります。

例えば、施策・事業項目91学校図書館情報ネットワークシステムの整備推進において、「コンピュータ機器の整備を検討する。」とありますが、第2次計画では「推進する」でした。

次に、施策・事業項目97学校間、学校と図書館間の配送サービスの構築において、「物流システムの構築に関して調査・検討する。」とありますが、第2次計画では「推進する」でした。

後退する文言になっていますが、これらの部分は子どもにとって大事な部分だと思います。

事業をたくさんやることよりも、どこが子どもにとって大事なのかということを考える、それがこの計画にはないと思います。

第2次計画には、「コンピュータネットワークの整備として、学校と図書館間のネットワークを形成する」ということがあったのですが、第3次計画ではなくなっています。その理由もお聞かせください。

小池管理課長 ネットワークの形成に関しては、第2次計画でも課題になっていた部分です。しかし、ネットワーク化するには費用がかかり、実施計画にもないため、実現が難しいです。そのため、第3次計画では、検討としております。

齊藤委員長 検討はできるが、実施はなかなか難しい、ということでしょうか。

小池管理課長 そのとおりです。

備中委員 概要の、「第2次計画における課題」で「図書館、学校、地域の団体等の円滑な連携」が挙げられています。25 ページでも、家庭・地域・学校等間の連携について書かれています。

私の家族も公民館図書室に本を借りに行きます。公民館図書室に本がな

ければ、図書館から取り寄せてくれるので、地域の公民館図書室の貸出状況は非常によくなっているという実感はあります。

「図書館、学校、地域の団体等の円滑な連携」とありますので、図書館と学校の連携なのか、図書館と地域の連携なのか、具体的に教えてください。

小池管理課長 4 家庭・地域・学校等間の連携として、26 ページから具体的な事業を掲載しています。このような様々な事業を行いながら、連携を図っていきたくと考えております。

備中委員 今までできていない、課題の部分は为什么呢。

齊藤委員長 その点いかがでしょうか。例えば学校図書室と図書館との相互貸借のシステムはないのでしょうか。

小池管理課長 相互貸借ではないですが、団体貸出は行っています。

齊藤委員長 団体貸出は行っていますよね。

相互貸借として、例えば、学校が「授業で本を使いたいので、図書館から借りたい」という要望にシステム的に対応できるものはない、ということでしょうか。

学校で、図書館のデータベースを検索し、授業で使いたい本があった場合、図書館に借りることはできるのですか。

元好情報資料課長 団体貸出で、図書館から学校に貸出をしています。

また、学校間での相互貸借ですが、授業の進度に多少違いがあっても、同じ時期に同じような本が必要になるため、授業で使う本は、他の学校にお貸しすることは難しいです。そのため、学校間での相互貸借はなかなか実現できないという話は聞いています。

学校でも、相当量の蔵書数があるので、効率的にデータベース化するには、費用がかかります。それを実現するよりも、学校の建物の老朽化や、エアコン等の設備に比重を置くというお話は伺っております。

備中委員 図書館、学校、地域の団体の円滑な連携ができていないために課題として挙がっていると思いますので、その課題が何かということを教えてください。

平山委員 関連ですが、第 3 次計画の概要をみると家庭・地域・学校は大きく記載されていますので、そのあたりも関係していると思います。

小池管理課長 事業を行っているものの、うまくいかない部分があります。そのうまくいかない部分を課題としており、より一層子ども読書活動を推進していきたくということが趣旨でございます。

具体的には、第 3 次計画の概要にあるとおり、事業を盛り込みながら計画推進をしていきます。

齊藤委員長 備中委員は、今の状態で課題はないと思っているので、第 3 次計画で挙げられている課題とは具体的に何か、という質問だと思うのですがその点はいかがですか。

元好情報資料課長 団体貸出は中央図書館が中心になってやっていますので、中央図書館から距離が遠いなどの理由で、団体貸出を利用しただけでないという学校もあります。全市的に利用していただくには、物流の課題があります。

また、団体貸出はオンラインで確認はできますが、リアルタイムで蔵書の予約はできません。図書館として改善できる部分がまだあるという思いから、そういった部分を課題としています。

齊藤委員長 十倉委員のご意見で、第2次計画では「推進」が、第3次計画では「検討」になっている部分は、今の時点では先に進めるのは難しいというのが、推進会議での方向性ですか。

小池管理課長 そのとおりです。

齊藤委員長 調査・検討となっていますので、事業自体は必要であるという方向性を持っていると解釈してよろしいですか。

小池管理課長 5年間の計画ですので、その中では難しい状況ですが検討していくということです。

齊藤委員長 これからの時代ですと、学校図書館資料のデータベース化やコンピュータ機器の整備などは必要だと思いますので、頭に入れながら子どもの読書活動を推進していただければと思います。

布施委員 先ほどお話がありました。千葉市では、まず学校設備等の整備から進めていると思います。学校図書館資料のデータベース化やコンピュータ機器の整備も、これからは大いに必要だとは思いますが、現状、子どもたちは古い校舎を使っている状況です。

データベース化等が先行していくのは、親としてはすこし気になる部分があります。

実際、9月の大雨のとき、校舎が雨漏りをして、教室も水浸しになり、1日授業が行えないということがありました。データベース化等よりも、まずは学校設備等の整備を先行していただきたいです。

もちろん、図書の相互貸借などもとても必要だとは思いますが、学校図書館に関しては、地域の方から寄贈していただくということがあり、学校により蔵書がだいぶ違ってくると感じていますが、子どもたちは学校図書館にプラスして地域の図書館や公民館図書室を使っているという状況です。

そのため、まずデータベース化等を先行していく必要はないのではないかと感じています。

齊藤委員長 優先順位の問題ですね。データベース化等が必要ではない、ということではなく、まずは安全等の部分を優先してほしいということですね。

十倉委員 予算がなく、データベース化等が進まないということはわかります。

費用のかかる事業ができないのであれば、工夫をして子どもに対してできる事業もあると思います。例えば施策・事業項目 110「司書教諭・学校図

書館主任や学校図書館指導員と図書館職員との交流会を開催する」とありますが、この交流会は実施されていますか。

山田情報資料課長補佐 図書館は、各学校でブックトークをしています。しかし、児童担当者が代わったときなどにブックトークができないことがあります。

次年度の方向性をどうするかお伝えするために、学校の先生方に集まっていたのが交流会の始まりです。

交流会では、学校と図書館はこれからも連携していきましょう、ということをお互いに意識づけしています。

十倉委員 もっと学校と図書館で、話し合わないといけないことはたくさんあると思います。是非、大事に続けていただければと思います。

伊藤委員 学校に専属する学校図書館指導員がいるとよい、という意見に付け加えさせていただきます。

読書活動を頑張っている学校には、作文のコンクール等の入選者がたくさんいます。読書活動に対して熱心な学校ほど、児童生徒の読書環境により影響があり、国語力や文章力にも効果があると、作文の審査をしていました。

掛け持ちではなく、専属する学校図書館指導員を配置することを要望します。

齊藤委員長 非常に重要ですね。

備中委員 関連ですが、千葉市は非常に学校図書館が充実しています。

学校図書館指導員の配置と、学校図書館設備の整備で、ソフト面・ハード面とも充実してきています。

さらにもう一歩進めるとすれば、専属する学校図書館指導員の配置や、学校図書館指導員が区毎に集まる会議の拡充があります。

例えば、花見川区ならば、花見川区の図書館で場所を提供していただいて、共通理解や情報交換などができれば、さらに連携ができるようになると思います。

齊藤委員長 原案をどこまで変更できるのか、という部分はあるかと思いますが、小学校に専属の学校図書館指導員を配置してもらいたい、という要望がありました。図書館協議会では、それは要望していくということでしょうか。

小池管理課長 今のご意見につきましては、所管課が教育委員会指導課になりますので、図書館協議会でそういうご意見をいただいたということをお伝えしておきます。

齊藤委員長 これは図書館だけの話ではないということですね。要望はお願いしたいと思います。

森川みやこ図書館長 先ほど作文コンクールの話が出ましたが、第59回青少年読書感想文全国コンクールで、千葉市末広中学校が読書感想文推進大賞を受

賞されています。第 60 回青少年読書感想文全国コンクールでは中学生が 1 人受賞されています。全国的にも、千葉市の学校図書館指導員の方の取組は、非常に成果が上がっていると感じております。

齊藤委員長 学校図書館指導員が専属で配置されることで、子どものモチベーションが上がり、知識も上がると思いますので、是非それを望んでいきたいと思えます。よろしくお願ひします。

平山委員 7 ページ 2 基本方針の方針 1「読書に親しむ機会の充実」の中で、「関係者同士の連携・協力を深め、ボランティア等の協力を得ながら」という文言があります。第 2 次計画にはなかった「ボランティア」という文言が、第 3 次計画から入るようになり、密接に関係のある千葉市文庫連絡協議会としては、この協力とはどのような形なのか伺いたいです。

また、9 ページ 2 団体貸出用資料の貸出冊数の、主な取組「団体貸出用図書についての蔵書検索機能の拡充」とありますが、どのように拡充されるのでしょうか。

齊藤委員長 まず 7 ページ「ボランティアの協力を得て」という文言の趣旨についてはいかがでしょうか。

山田情報資料課長補佐 図書館では、地域おはなしボランティアの養成をしています。現在、5 期が終わり 124 名の方と一緒に活動しています。図書館で研修等を行い、おはなしボランティアのスキルアップをしながらやっています。

読書まつりも各団体さんに企画から入っていただくなど連携をしており、ボランティアさんの力を受けているということに非常意識しています。

今後ですが、学校連携の中で紙芝居の要望がございます。紙芝居は子どもが、よい言葉や物語を受け入れる導入に非常に役立つと考えていますので、第 3 次計画では新規として入れさせていただきました。

ボランティアの役割として、地域おはなしボランティアと同様に、紙芝居のボランティアを養成していくということで、これを含ませていただきました。

平山委員 紙芝居についても、第 3 次計画に載っていて気になりました。学校の要望があったということでしょうか。

山田情報資料課長補佐 短い時間の読み聞かせで、大勢の子どもに読書の楽しさを提供するのには難しい部分があります。また、各自の読書量によっても違ひます。

ボランティアさんたちと一緒に出向いて行き、本が楽しい、その環境がおもしろい、と思ってもらうことが最初のステップです。それから、親子で図書館に来てもらう、紙芝居はそういうきっかけになると思ひます。

そごうの子ども売り場でおはなし会を行いました。図書館でやるおはなし会のスタンスでいくと、子どもに素通りされてしまひます。隣がおもち

や売り場なので、それに負けないように、楽しめるものを提供するスタンスで紙芝居をしました。

そうすることで、図書館の PR もできます。そして、もっとこういう楽しいものを聴きたいときはどうすればよいのか、といったときに図書館を案内します。そうした最初のステップとして、必要なことと思い、第 3 次計画に挙げさせていただきました。

齊藤委員長 その点はよろしいでしょうか。

平山委員 わかりました。

齋藤委員長 続いて 9 ページ「団体貸出用図書についての蔵書検索機能の拡充」はいかがでしょうか。

平山委員 団体貸出用図書の蔵書検索機能は、私たちも使っているところです。

2~3 年前に、団体貸出で今借りられる本をホームページから閲覧できるようになりました。それ以上に、何か拡充があるのか、という意味でお尋ねしました。

元好情報資料課長 団体貸出資料につきましては、以前は月 1 回ぐらいで、オンライン上で表示していました。

数年前に、もう少しリアルタイムに近づけるため、毎日更新するようにしています。それは、月 1 回の更新だと、他の団体さんが借りた本も、次の更新まで残ってしまうためです。

なるべく最新のものが確認できるように、毎日更新するような形にしていますが、リアルタイムではないというところは、検討課題として残っています。

また、画面が全件リスト形式なので、自分の必要な本がどこにあるか、見つけるのが大変なため、検索機能を付け加えることができないか検討をしています。

ただし、予算の関係もありますので、それも踏まえて検討をしていきます。

十倉委員 紙芝居ボランティアについて意見です。

これまで図書館として、おはなしボランティアを育てられたというところで、図書館が大事にしてきたものと、紙芝居は違うものだと思います。

いろいろな人たちに PR していく上で必要なことかもしれませんが、いろいろと手を広げるよりも、これまでやってきたことを大事にさせていただく方が、私はよいと思います。

青柳委員 9 ページ 3「読書習慣のある児童生徒の割合(1 週間に 1 時間以上)」について、平成 26 年度は小学校 5 年生 45.2%、中学校 2 年生 46.9%と、さほど差はないです。

ところが、4「1 か月に読んだ本が 0 冊の児童生徒の割合」について、平成 26 年度は小学生 1.1%しかないのに、中学生は 7.9%になっています。

これは、読書時間は変わっていないのに、読んでいる冊数は減っている。読書をしなくなる傾向は全体的なことではなく、読書をする子としない子に両極端にわかれているということだと思います。

では、これをどう解決するのかということで、15 ページ「中・高校生向け資料(図書・CD・雑誌等)の幅広い収集に努める」とあります。

全体的な子どもたちの読書量を増やすにはどうするか、中学生になると本を読まなくなる子が出てくるがどうするか、という部分に対しては具体性に欠ける気がしますが、そのあたりはどのようにとらえていますでしょうか。

小池管理課長 「学校以外で1週間にどのくらい読書をするかに対し「読まない」と回答する児童生徒の割合」については、意識調査のため、このような結果になっています。

「1か月に読んだ本が0冊の児童生徒の割合」について、中学生の方が小学生よりその割合が高く、学年が上がるにつれて読書をしなくなる傾向については、国と同様の結果となっております。

そこで、この不読率を減少させる取組については、家庭との連携をどのように図るか、学校としてどのように取組むか、をポイントと考えております。

例えば、学校については、調べ学習の充実や、全国一斉読書活動の推進などで、不読率の改善を図っていきたいと考えております。

齊藤委員長 小学校高学年から中学校に上がる間で、図書館から離れる状況に対する対応については、私も考えておりましたので、青柳委員の質問については、同感をしておりました。

お答えいただいた対応をしていくということですがいかがですか。

青柳委員 小学生に対しては非常に熱心にイベントなどやったりするのだけれど、小学校高学年から中学生くらいになると自主性に任せてしまって、あまりそういうこともなくなってくる、という気がします。そこを食い止めないと、大人になっても本を読まなくなってしまう。

伊藤委員 先日、ラジオを聴いていましたら、「子どもが小学生になり、本をたくさん読むが、勉強を全然しない」という相談がありました。それに対して「本をそれだけ読んでいたら、すぐ勉強にも熱心になります。だから心配することはない」という先生の話がありました。

ですので、対策をして無理に押しつけることはないと思います。大人の頭で考えるよりも、中学生の読書力は高いそうです。

青柳委員 個人的には、本は読むべきだと思っているので、あまりパソコン等に頼ると自分で考える力がなくなってしまう。

齊藤委員長 できるだけ、本を読んでもらいたいですが、第3次計画にも書いてあるように、塾・部活動・パソコンなどでなかなか読書がされないという部分もあると思います。

図書館で「子ども司書講座」というものを行っているところがあります。小学校高学年から中学生くらいを対象に司書の勉強を、子ども向けにやっています。そのような小学校高学年から中学生向けのイベントを行うという対策もあると思います。

青柳委員のご指摘はよくわかります。

伊藤委員も中学生の可能性というものをご指摘されています。

大山副委員長 関連ですが、年齢によって本の読み方も変わってくると思います。小さい子は、物語を通読するような読み方をしますが、中学生になると、必要な部分を読むような読み方も出てくると思います。

第3次計画で、いろいろな事業がある中で、小学校・中学校向けの事業はありますが、高校生に対しての視点があるとよいと思いました。

高校生に対しての事業については、計画に反映させるのは難しいとは思いますが、例えば「1冊本を読みましよう」というのとは別の方向性で、課題やレポート等をクリアするための、本や図書館の使い方についての紹介などです。

能勢委員 8ページ「子どもは読み聞かせや大人の読書する姿を見て読書意欲を高めます。」とあります。

大人が本を読まない、子どももやはり本を読みません。家庭に本が1冊もない家庭では、子どもは本を読むはずがありません。

そういう意味で、千葉市の場合は、祝日も図書館を開けているので、全体的な読書の環境は、以前に比べればよくなっています。

子どもに本を読ませるために、30ページ施策・事業項目129～130あたりのファミリーブックタイムや母親&父親学級において関係資料を配布するなど啓発活動に努めるなどの、大人についての啓発活動を行うことが、そのまま子どもの読書活動につながります。

「子どもの読書週間」は、知らない人が非常に多いです。「子どもの読書週間」は秋しかないと思っている人もいるわけですが、実際は2回あります。

そこに結び付けて千葉市でもイベントをしていると思いますが、市の広報等を使って、図書館としてもっとPRすれば、大人が子どもを連れてやってくると思います。

大人の背中を見て、子どもは本を読むと思います。

齊藤委員長 本がたくさんある家庭では、子どもも本を読むようになるということはあると思います。

平山委員 ファミリーブックタイムについて、4か月児健診や、妊娠期用を配布するとして拡充としています。所管課ですが、4か月児健診は健康課だと思えますが、ここには図書館と指導課しかありません。図書館と指導課のみが所管課なのでしょうか。また、妊娠期用はどのようなときに配られるでし

ようか。

施策・事業項目 1「読書ノート」の配布」、施策・事業項目 2「親子ふれあい本の提供」についても、所管課が中央図書館だけになっています。「まほうの読書ノート」は学校で配布していると思いますが、いかがでしょうか。

小池管理課長 「まほうの読書ノート」は学校で配布していますが、中央図書館が作成して、実施するという意味で、所管課は中央図書館としています。

ファミリーブックタイム運動については、新就学時を対象とするため、所管課に指導課がはいっています。

平山委員 4か月児健診はいかがでしょうか。

小池管理課長 ファミリーブックタイム運動のリーフレットを作成しているのは、中央図書館です。おすすめ本等を掲載しているブックスタート事業については、4か月健診時に行い、健康課などが読み聞かせを行っていますので、所管課に健康課がはいっています。

平山委員 親子ふれあい本は、現在どのような状況でしょうか。

小池管理課長 民間の幼稚園等に対して、どのように協力いただけるかといった調査が終了した段階です。12月を目途に配布を予定しています。

十倉委員 これは意見です。20ページ施策・事業項目 74「公民館図書室の資料の充実」、施策・事業項目 75「公民館図書室職員の研修の充実」とあります。

公民館図書室についてですが、管轄が違うことは重々承知していますが、最初に齊藤委員長がお話されたように、図書館の責任ある体制の中で運営してほしいです。瑞穂地区の図書館機能の整備も、公民館図書室も、図書館との関連が切れてしまうと、図書館ではなくなってしまうと思います。

実際に、公民館図書室を利用される方が、「なぜ図書館ならわかることが、公民館図書室ではわからないのだろう」ということをおっしゃられるという話も聞いています。

市民が図書館と同じように、公民館図書室を使えるように、図書館が責任をもっていくというところは、お願いをしたいと思います。

齊藤委員長 先ほどもありましたが、他課との連携の関係もあり、図書館だけで進められることではないので、図書館協議会として出た意見については、事務局でうまく調整をしていただいて、パブリックコメント手続きに入っていただければと思います。

パブリックコメント手続きで出た意見を踏まえながら、最終的な計画の策定ということになりますので、ご了解をいただければと思いますがよろしいでしょうか。

次回の協議会でご報告いただければと思います。

以上で本日の議事は終わりますが、瑞穂地区の図書館機能整備の状況と、公民館の指定管理者制度の状況について、公民館図書室は図書館と関係があるところなので、お分かりになれば教えてください。

小林管理課担当課長 瑞穂地区の図書館機能整備ですが、予算では今年度平成 27 年度に実施設計、平成 28 年度に整備を行い、平成 28 年度末にオープンということで進んでいます。

現在の状況ですが、実施設計委託を建築部に依頼して、実施設計が動いているところです。

私どもが考えて、自分たちのアイデアだけでつくってしまうということではなく、よりよい図書館をつくりたいということで、「花見川区にもう一つ図書館をつくる会」「としょかんふれんず千葉市」のみなさまとの話し合いを重ねてまいりまして、それを受けて実施設計委託に出し、この時期になっているということで、ご理解いただきたいと思います。

実施設計に入っているところですので、来年、概要などが明らかになりましたら、ご報告できるかと思います。

齊藤委員長 建築部に依頼を出しているということですが、第 3 者の設計者がはいっているということではないのですか。

小林管理課担当課長 建築部から設計業者に実施設計委託をかけて、話し合いながら進めていきます。

齊藤委員長 予算はついていますか。

小林管理課担当課長 300 万円の予算がついています。

齊藤委員長 どのような図書館になるか気になる場所ですし、運営もきちんとやっていたらと思います。

公民館はどうでしょうか。

小林管理課担当課長 少なくとも私の段階では、情報は入っておりません。

齊藤委員長 私の意見ですが、公民館が指定管理になった場合、公民館図書室がどうなるのか、ということは図書館にとっても非常に大きな問題になると思います。

研修をやっている、システムがつながっているなど、図書館と関連が大きいところですので、指定管理に任せていいのか、という部分について、きちんとしておかないといけないと思います。図書館として無縁の話ではないと思います。事情はわかっていますが、無責任な対応はできないと思いますので、そこらへんは頭に入れながら対応していただければと思います。

それと、能勢委員からも先ほどありましたとおり、公民館図書室はよく利用されていると思います。公民館の中でも、利用の多い機能の一つだと思いますので、公民館図書室をどうすべきなのか、指定管理者に任せていいのか、という部分も含めて、きちんと対応していただければと思います。

十倉委員 貸出冊数などで公民館図書室も含めるのならば、数字だけもらって、図書館は知らないというわけにはいかないと思います。是非そういうところも、考えていただきたいと思います。

齊藤委員長 他に皆様の方で何かございますか。よろしいでしょうか。

なければ、以上をもちまして、本日予定していた議事は終了いたしました。

みなさまから適切な意見をたくさんいただきました。これを参考にしていただき、よりよい子ども読書活動推進をしていただければと思います。本当にありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。

事務局進行 以上をもちまして、平成 27 年度第 2 回図書館協議会を閉会いたします。なお、議事録につきましては、事務局にて議事録案を作成し、委員長のご承認をいただいたうえで確定とさせていただきます。

長時間に渡り慎重に審議をいただき、誠にありがとうございました。

<閉会>

問い合わせ先 千葉市教育委員会事務局  
生涯学習部中央図書館管理課  
TEL 043(287)4081